

満月の夜開く けいはんな哲学カフェ

第54回「ゲーテの会」

未来に向かう人類の英知を探る
— 時代の裂け目の中で、人々は何に希望を見出してきたか —

《科学・技術分野》

「関孝和と江戸時代の数学」

講師：四日市大学関孝和数学研究所長、京都大学名誉教授 **上野健爾** 先生

【講演要旨】 関孝和は、中国伝統数学を引き継いだ当時の数学を、それは今日の中学校程度の数学であったが、いきなり今日の研究者レベルの数学に高めた。中国伝統数学では1未知数の方程式しか取り扱うことができなかったが、関孝和は多未知数の方程式を記す方法を考案し、さらに未知数を消去する一般的な方法を西洋の数学者に80年以上先んじて完成させた。中国伝統数学では個々の問題を解くことが重要視されたが、関孝和は一般論の構築が重要であることを主張し、それを実践した。しかし、江戸時代の数学者は誰一人、このことを理解することができず、その弊害は今日の日本の数学教育に引き継がれている。

関孝和以降の江戸時代の数学は難しい問題を作りそれを解くことに熱中し、日本全国に数学愛好者を作り出した。江戸末期から明治初期にかけて、軍事的な要求から西洋数学が必要となったときに、それを比較的容易に輸入できたのは江戸時代の数学ブームのおかげであった。

本講演では関孝和の数学を紹介し、それがどのように江戸時代の数学者に引き継がれていったについて述べたい。

【講師紹介】 1945年熊本市に生まれる。1968年東京大学理学部卒業。1970年東京大学理学系研究科修士課程修了。東京大学理学博士。1970年東京大学理学部助手。1976年京都大学理学部講師。同助教授を経て1987年京都大学理学部教授。2009年定年退職。2009年四日市大学関孝和数学研究所長。京都大学名誉教授。専門は複素多様体論。著書に『代数幾何入門』（岩波書店）『誰が数学嫌いにしたか』（日本評論社）『学力が危ない』（岩波新書、大野晋との共著）『数学の視点』（東京図書）『円周率が歩んだ道』（岩波書店）『小平邦彦が拓いた数学』（岩波書店）など。現在、『関孝和全集』の編集を行っている。

日時：2017年12月6日(水)18:00～20:30
会場：公益財団法人国際高等研究所
参加費：2,000円(交流・懇談会費用を含む)
定員：40名(申し込みが定員を超えた場合は抽選)
申込：裏面のURLからお申込みください
詳細：<http://www.iias.or.jp/communication/goethe>
締切：2017年12月3日(日)

 公益財団法人
国際高等研究所
International Institute for Advanced Studies

けいはんな「ゲーテの会」とは・・・

けいはんな学研都市の建設理念は、「従来の近代科学技術文明を乗り越え、新たな地球文明を創造するために、西欧が生み出した文明の成果と自らに固有の東洋的文化を総合する」ことにあります。高等研にあるゲーテの胸像はその理念のシンボルです。満月の夜は高等研で、人類の未来と幸福・けいはんな学研都市の将来について一緒に考えてみませんか。

